

保育の広場

那珂こども園
令和8年7月1日

夏本番！水遊びから育つ やってみたいの気持ち



夏ならではの遊び「水遊び」の季節がやってきました。
子どもたちは、水の冷たさや流れる様子、重さや音などを
全身で感じながら、心も体もぐんぐん育っています。
一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心して楽しめる
環境をつくっていききたいと思います。



水遊びから育つもの

① 五感の刺激

水の冷たさ・感触・音・色
の変化などを全身で感じ、
感覚が育ちます。



② 探究心・科学の芽

「どうなるかな？」「もっとやって
みたい！」の気持ちが大切にすること
によって、工夫したりする力が
育ちます。



③ 主体性

「もっとこうしたい」「次は
こんなことやってみよう」と
考える経験が、主体的な
育ちにつながります。



「イヤ！」は 主体性の芽生えです

「水がかかるのがイヤ」
「濡れるのがイヤ」などの
気持ちは、わがままではなく、
「自分で決めたい」「自分の
気持ちを伝えたい」という
心の育ちの表れです。



子どもの「イヤ！」との付き合い方 ～主体性につなげる関わり～

未満児（0～2歳）の関わり方

安心できる環境の中で、自分で選ぶ経験を

- 「見るだけ」「触るだけ」もOK
- たいろ・じょうろ・スポンジなど、
遊び方を選べるようにする
- 無理強い、次からを妨げます

声かけの例

お水冷たくて
びっくりしたね

じょうろで
やってみる？

今日は見学だけ
でもいい？



少し待ってみて、気持ちにそっと寄り添うと、
「イヤ」という気持ちを受け止めてもらう経験が、
「やってみようかな」という次の一歩につながります。

以上児（3～5歳）の関わり方

自分で考え、選び、工夫する経験を

- 遊び方や使う道具を自分で選ぶ
- 水の量や流し方を試行錯誤する
- 「どうしたら楽しくなる？」を
一緒に考える

声かけの例

どの道具を
使ってみよう？

面白いからもっと
力強くやってみよう？

水はどうして
流れるのかな？



「イヤ」の理由を言葉にし、解決方法を考える経験が、
主体性や問題解決力を育みます。

保護者の皆さまへ

子どもたち一人ひとりの「やりたい」「やりたくない」の気持ちに寄り添いながら、
この夏ならではの遊びや体験を通して、自分で考え、感じ、挑戦する力を
育んでいきたいと考えています。ご家庭でも、どうぞ温かく見守り、
子どもたちの小さな「やってみたい！」と一緒に応援してくださいね。



参考文献

- 汐見稔幸 著「主体性を育む保育」
- 無藤 隆 著「10の姿を育む保育の考え方」
- 遠藤利彦 監修「0・1・2歳児の心の育ちと保育」

